

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行NO	NO. 44	報告者	勝亦 国昭
年月日	2007年11月18日(晴)	2万5千	御正体山・都留
山名	北丹沢・御正体山(1682m)		
体力度=4・やや大変 展望度=頂上は展望無し 三角点名=御正体山 等級=一等三角点 トイレ=道志「道の駅」			
静かな晩秋の山、落ち葉ガサゴソガサゴソ			
コース とタイム	下土狩駅5:00-農協5:05-納米里駅5:10-御殿場-河口湖-都留-三輪神社6:40着・6:50出発-7:12着替え-7:25舗装終了登山道に入る-8:5510分休み-9:14道標-9:15峰神社-9:40御正体山着・9:50石割山を目指して出発-10:18富士山右手方向に見る-10:38中ノ岳-11:10鉄塔着(昼飯)・11:55出発-12:10石割山への分岐点にて石割山に向うグループと山伏トンネルに向うグループに分かれる-12:50山伏トンネル着・13:10バスに乗る-13:20石割の湯に到着・15:30出発-17:00農協着		
標高差	上り=三輪神社約640m~御正体山1682m(約1042m) 下り=御正体山1682m~山伏トンネル約1100m(約582m)		
参加者	A隊:CL後藤隆徳、大塚睦志、宮川寿夫、永尾 広、井上弘二郎、原田伸一郎、山本 一、塚田毅明、河野光江、石和加代子、峰田光江、村上充彦・美恵子、勝亦国昭 御正体山頂上で2名(後藤CL, 大塚)と別れ、12名で石割山に向かい、途中で3名(村上夫妻、勝亦)が山伏トンネルへ下山。		

私が御正体山を知ったのは、達磨山レストハウスのパンフレットで、以前は三国山だった山名が、御正体山に変わっているのを見てからである。いつか御正体山から駿河湾の方を見てみたいと思っていた。

その後、初夏に友人と山伏トンネルから御正体山に登り、頂上から駿河湾、伊豆方面の见えないことが分かり残念だった思い出がある。

さわやかハイクでも、昨年11月登る予定だったが、雨で中止になった。

今年は晴天に恵まれ、心地よい晩秋の御正体登山ができた。今回のコースとなった道志から三輪神社までの道は、カーブがきつく、久ぶりに車酔いの気分になった。三輪神社前に着き、車酔いを追い出すため深呼吸をし、手足のウォーミングアップした後、舗装道路を歩き出した。



途中でウィンドブレーカーを脱ぎ、まもなく舗装道路が終り登山道に入る。途中堰堤工事を左手に見ながら進む。仏ヶ沢を渡ってから、いよいよ急な登り坂となる。落ち葉を踏みしめ足下を見つめながら登る。途中で10分くらい一休みしてから、また登りに掛かる。細野への道標までが厳しい登りだった。

道標を過ぎてまもなく木々の間から富士山を見ながら進むと峰神社の石祠が現れる。ここで山本さんに写真を撮って頂く。しばらく進み抱き付き岩を過ぎて、一頑張りで頂上に着く。



頂上の一等三角点に触れ、再会できたことを喜ぶ。頂上でA隊のメンバーで写真を撮ってから、石割山を目指すグループ12名とB隊を待つ2名のグループに分かれる。

御正体山からの下りは、右手側の富士山を見ながら、西側からの強い風による木々のざわめきの音と落ち葉を踏みしめる音の中を進む。中ノ岳を過ぎ、小ピークをいくつか上り下りして見晴らしの良い送電鉄塔（256番）に出る。ここでは既に他のグループが賑やかに食事をしていた。我々、12名もここで食事をする。

ここからは富士山は良く見えたが、頂上は一部雲が掛かっていた。遠くに三ツ峠山が見えた。12時少し前に送電鉄塔を出発し、間もなく奥ノ岳を過ぎる。12時10分ころ石割山への分岐点に着き、ここで石割山を目指す9名と山伏トンネルを目指す我々3名に分かれる。

石割山を目指すグループの記録を塚田さんに依頼する。分岐点からすぐに急坂になり、どんどん快調に下る。前回この辺りは湿った赤土のため、滑って歩きにくい所だったが、今日は乾いて歩きやすい。残っている紅葉を見ながら、山伏トンネルに着く。

山伏トンネルを抜け、山中湖側でバスを待つ。鉄塔で会ったグループも下山してきて、これから道志の方面に行くとのことだった。そうこうしているうちに我々の乗ってきたバスがトンネルから現れ、B隊と合流した。

「石割の湯」にゆっくり浸かり疲れを癒し、石割山に向ったグループと合流した後、長泉町に向った。車中では、今日の感想、希望など各々が披露した。

いろいろお世話頂いた後藤講師、君山さん、同行の皆様、ありがとうございました。

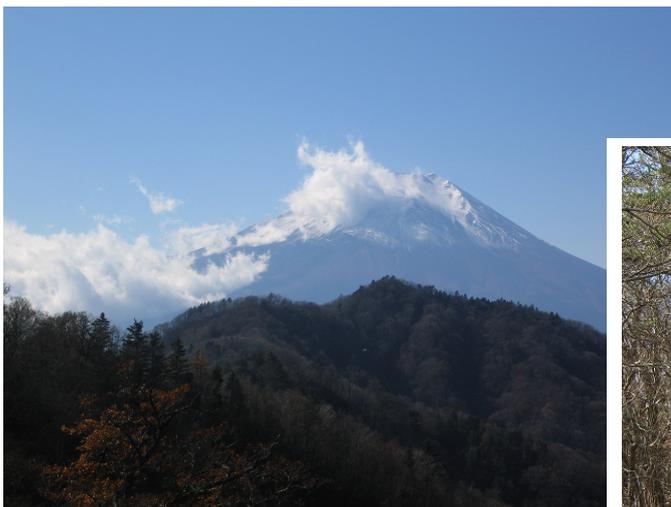


A 隊の皆さん



B 隊の皆さん

送電鉄塔から見た富士山



(勝亦さん撮影)



B 隊の下山